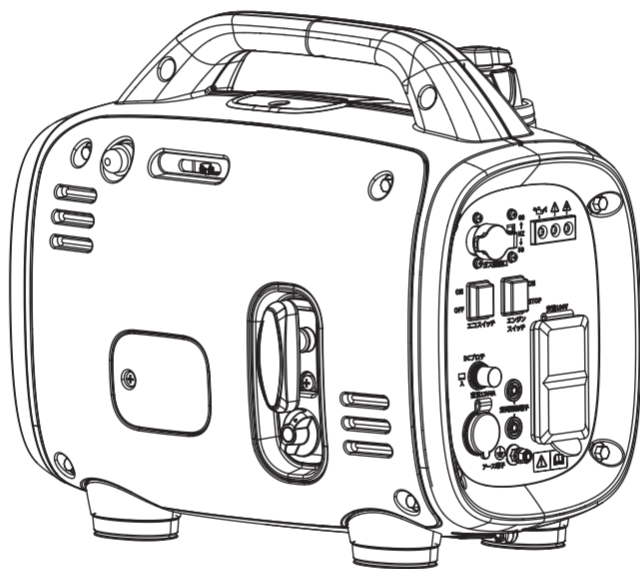


EENOOR



インバーター発電機GS950iD-B

取扱説明書






はじめに

このたびはEENOURインバーター発電機GS950iD-Bをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁止	取扱においてその行為を禁止します。
 指示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくために	01～02
各部の名称と取り扱い	03～06
運転前の準備	07～13
・エンジンオイルの給油	07
・エンジンオイルの給油・量の確認	07
・エンジンの始動前の確認事項	08
・運転前の準備(カセットボンベ)	09～10
・運転前の準備(ガソリン)	10～13
発電機のかけ方(ガソリン)	12～13
発電機のかけ方(カセットボンベ)	14
燃料の排出方法	15～16
電気の取り出し方	17～19
・AC電源100V	17
・DC電源12V	17～18
・並列運転	18～19
エンジンの停止・燃料切り替え	20～21
点検・整備の仕方	21～25
・定期点検表	21
・エンジンオイルの交換	22
・点火プラグの点検と清掃	23
・燃料タンクストレーナーの清掃	24
・マフラーキャップの清掃	24
・エアクリーナエレメントの清掃	25
運搬する場合には	26
一時保管・長期保管	27
不具合時の対応	28
仕様諸元	29
配線図	30
保証期間およびお問い合わせ	31
保証書	32
保証の適用例外	33

安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠ 危険

❗ 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

⊘ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

⊘ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

⊘ 燃料は非常に引火しやすく、室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

⊘ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

⊘ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

⊘ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

⊘ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

⊘ 作業員以外、発電機に触れさせない

発電機に子供・ペットが触れないよう、隔離措置をして安全な場所で運転してください。

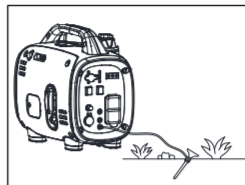
安全にお使いいただくために

⚠ 注意

⊘ 必ずアース(接地)をして下さい

未然に感電や事故を防ぐために、必ずアース(接地)をして下さい。

十分な電流容量のアース(接地)線、
直径0.12mm/A以上を使用してください。
例:10A-1.2mm



❗ 他のブランド発電機と並列運転しないでください。

❗ 延長コードまたはモバイル配電盤を使用する場合、断面積 1.5mm^2 のワイヤは60メートルを超えてはなりません。断面積が 2.5mm^2 の場合、ワイヤの長さは100メートルを超えてはなりません。

❗ 運転中に移動しないでください。

❗ 液状のガスが皮膚に付着した場合は、凍傷の恐れがあります。燃料もれが無いかがよく確認してください。

⚠ 警告

⊘ 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない
やけどの原因となります。

⊘ 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない
エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れないでください。感電の原因となります。

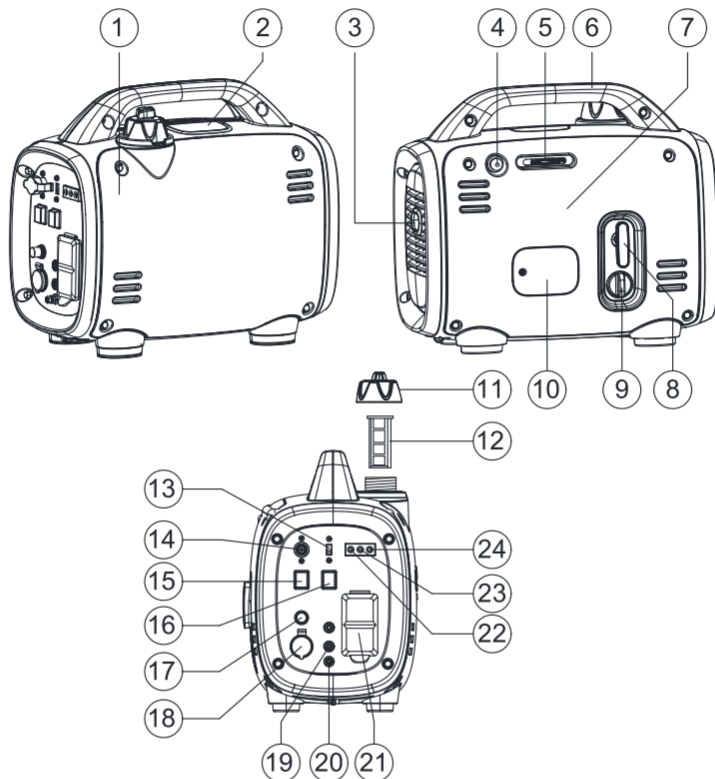
⊘ エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない
火災の原因となります。

❗ 使用中に音、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する
お買い上げ販売店またはサービス店にお申し付けください。
燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入った場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

❗ 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう
水平を保つ
エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

各部の名称と取り扱い

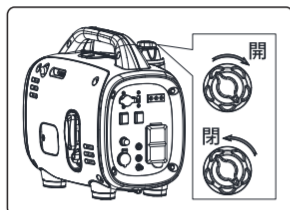
各部の名称



①燃料タンク	②スパークプラグ	③マフラー
④プライマーバルブ	⑤チョークレバー	⑥持ち手
⑦エアフィルター	⑧リコイルスタータ	⑨ガソリンコック
⑩エンジンオイル注入口	⑪燃料タンクキャップつまみ	⑫燃料フィルター
⑬周波数切替スイッチ	⑭ガス接続口	⑮エコスイッチ
⑯エンジンスイッチ	⑰DCプロテクター	⑱シガーソケット
⑲並列運転端子	⑳アース(接地)端子	㉑AC出力コンセント
㉒オイル警告灯	㉓過負荷表示灯	㉔出力表示ランプ

各部の名称と取り扱い

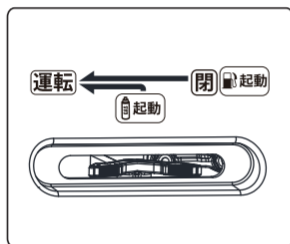
各部の取り扱い



1.燃料タンクキャップつまみ

燃料タンク内と外気との通気穴の開閉装置です。
本機を運転、停止する時に操作します。

- ・OPEN (開) : 発電機運転時
- ・CLOSE (閉) : 停止、運搬、保管時

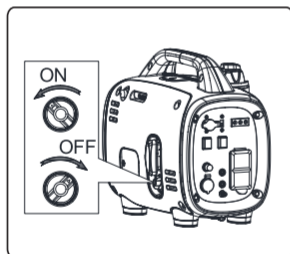


2.チョークレバー

エンジンに入る空気量を調整し、エンジンを始動させる際に使用します。

- ・起動: 始動に必要な燃料と空気量に調合できる位置です。
- ・運転: エンジンに入る空気量を広げた運転時の位置です。

注意: エンジンが冷えている状態からエンジンをかける時は「起動」の位置します。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



3.ガソリンコック

ガソリンコックはガソリンの供給経路を開閉するバルブです。

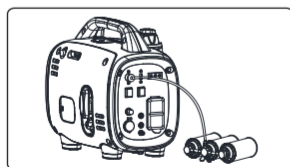
①ON

燃料回路がONになっています。エンジンが始動可能です。

②OFF

燃料回路がOFFになっています。エンジンが始動出来ません。

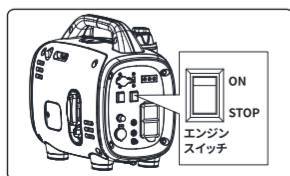
※ガソリンを使える時だけONします。カセットボンベ使える時OFFしてください。



4.ガス接続口

付属したの外付けソケットをこの接続口に取り付けて、カセットガスを燃料として発電できます。カセットボンベのセット方法は「カセットボンベの取付け」。

※P9を参照してください。



5.エンジンスイッチ

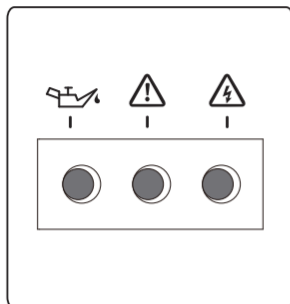
点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行います。

ON: 本機の起動、運転時の位置です。

STOP: 本機の停止や保管時、運搬時の位置です。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

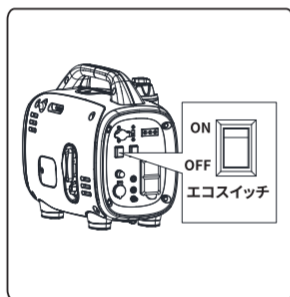


6.出力表示ランプ・過負荷警告ランプ・オイル警告ランプ

・出力表示ランプ(緑):発電が始まると点灯します。インバーターが使用可能であることを示します。

・過負荷警告ランプ(赤):発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のときに出力表示ランプが消え、過負荷警告ランプが点灯し、電気が取らせなくなります。

・オイル警告ランプ(赤):本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付きが起こる前にこの機構が働き、エンジンを停止させオイル警告ランプが点灯します。

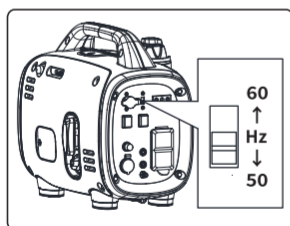


7.エコスイッチ

・ON(作動):エコモードを使用します。電気機器を使用すると自動的にエンジンは電気の使用量に応じたエンジン回転数となり、電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。燃料消費と騒音を減らします。

・OFF(解除):エコモードを使用しません。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

※コンプレッサー、ポンプもしくは冷蔵庫のような大きな起動電流が必要なデバイスにご使用する場合、必ずエコスイッチをOFFにしなければなりません。



8.周波数切替スイッチ

周波数の切り替え(50Hz⇄60Hz)を行うスイッチです。

エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。



直流12V4A

9.シガーソケット12V

シガーソケットから車バッテリー、車載冷蔵庫などの直流12Vの車載用電気機器に給電できます。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

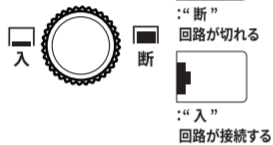
交流100V



10.AC出力コンセント100V

AC出力コンセントから交流100Vの電気機器に給電可能です。
AC出力コンセントで使用する電気機器の合計消費電力が、本機の定格出力以下であることを確認してください。

DCプロテ



11.DCプロテクタ

DC出力コンセントの温度がプロテクタ(過熱保護装置)に定された温度を超えた時にDCプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからDCプロテクタを“入”になり、再度起動してください。



アース端子

12.アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。



並列運転端子



13.並列運転端子

並列運転をする時にコンセントボックスコードを差し込む端子です。接続コードは並列運転コード(別売部品)を必ず使用してください。コンセントボックスはお買い上げ販売店にご注文ください。

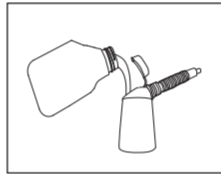
運転前の準備

エンジンオイルの給油

1. オイルメンテナンスカバーのネジをゆるめて取り外します。

ご注意：本機のエンジンオイル規定量が250mlで、規定量以内のエンジンオイルを注いでご使用ください。

2. 付属のオイルジョッキのフタを開け、エンジンオイルを注ぎます。
3. オイルプラグを外して、オイルジョッキのノズルをオイル給油口に差し込み、エンジンオイルを規定量給油します。
4. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。オイルメンテナンスカバーを取り付けます。

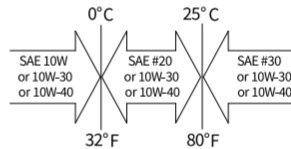


推奨オイル：

4サイクル用エンジンオイル

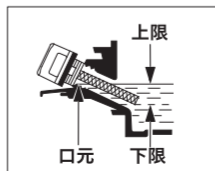
SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：0.25L



エンジンオイルの量の確認

1. 平坦な場所に発電機を止め左側のオイルメンテナンスカバーを外します。
2. オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。
3. オイルゲージを差し込んで（注入口からオイルゲージをねじ込まないで）から引き抜き、エンジンオイルが付着している部分の範囲で残量を確認します。
4. オイルレベルゲージには「F」「L」という文字などの印がついており、エンジンオイルが両者の間に付着していれば適正量です。



運転前の準備

エンジンの始動前の確認事項

⚠ 注意

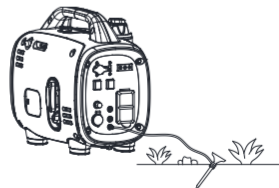
🚫 禁止	・エンジンオイルを給油しない場合、始動しないでください。 ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。
📢 指示	・工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。 ・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。 ・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。 ・2回目以降は100時間運転後または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

本機周辺の点検

- ・周囲に火の気や可燃物および危険物がありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- ・雨や水などが本機にかかっていませんか。

アース(接地)

発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。



周波数切替

エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。



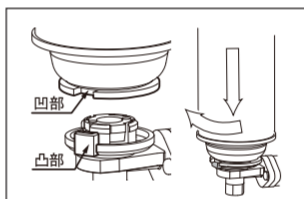
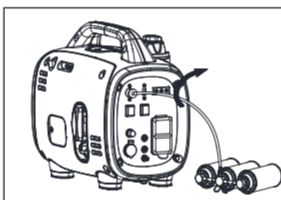
運転前の準備(カセットボンベ)

カセットボンベの取付け

付属したカセットボンベ外付け用ソケットを使って、3本のカセットボンベを接続し同時に供給することができます。

取付け方法:

- 1.カセットボンベをよく振って残量を確認します。振った際に「サラサラ」と音がしない場合は新しいカセットボンベに交換してください。
- 2.カセットボンベの専用キャップを取り外し、カセットボンベの先端をカセットボンベ外付け用ソケットの容器側ソケットに挿入します。カセットボンベの切り込み凹部と容器側ソケットの受けガイド凸部を合わせ、押し込みながら時計回りに回して装着します。
- 3.カセットボンベ外付け用ソケットの機器側ソケットと本機のガス接続口を合わせて、時計回りに回して取り付けます。



カセットボンベについて:

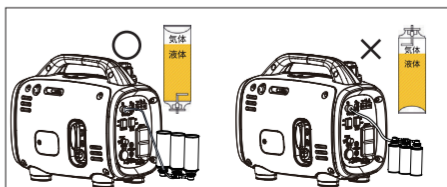
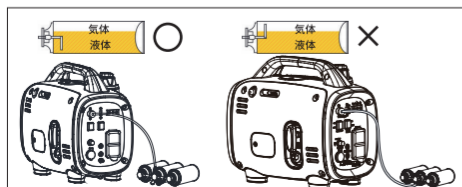
カセットボンベは、「イワタニカセットガス」(ただしパワーワールド、ジュニアは除く)の表示のある専用容器(LPGボンベ)を使用してください。

他の容器(LPGボンベ)を使用するとガスが漏れたり、正常な使用ができない場合があります。



設置方法:

本機は液体ガス(生ガス)を気化させエンジンに供給させるキャブレター(気化器)が備えています。カセットボンベを最後まで使い切るために、カセットボンベ外付け用ソケットで本機と接続する場合は、カセットボンベの切れ込みを下にしてください。なお、卓上カセットコンロなどのガス器具と接続する際には、カセットボンベの切り込みを必ず上にして使用してください。



運転前の準備(カセットボンベ)

⚠ 注意

🚫 禁止	<ul style="list-style-type: none">・カセットボンベの取り付け、取り外しを行う際やカセットボンベの付近ではタバコを吸ったり、火や火花などの火気を近づけたりしないでください。・カセットボンベを40℃以上になる場所や車、炎天下に置かないでください。カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こす原因になり危険です。
❗ 指示	<ul style="list-style-type: none">・カセットボンベに記載されている警告内容をよく読んでから使用してください。・カセットボンベはエンジンを止めてから交換してください。・本機を使用しない場合は、カセットボンベを取り出してください。・カセットボンベは本機に正しくセットしてください。しっかりセットされていないとガス漏れを起こす原因になり危険です。・カセットボンベを取り付ける際は、カセットボンベ差し込み口にゴミや異物が付着していないことを確認してください。

運転前の準備(ガソリン)

ガソリンの給油

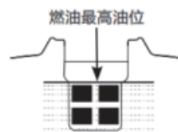
燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時：中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。

使用燃料：

無鉛ガソリン(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量：

1.4L(赤レベルまで)



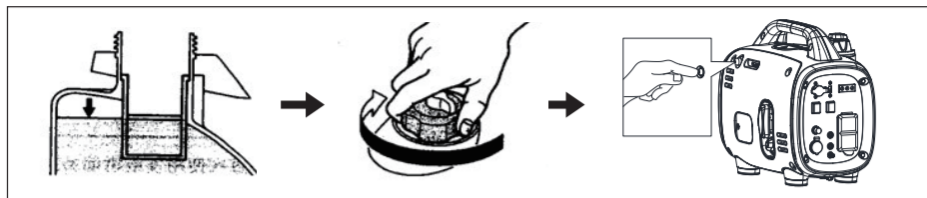
・毎使用前に、毎回使う前に、燃料タンクのガソリン量を確認してください。
燃料を確認

・本機を初めて使用する場合、ガソリンをタンクからキャブレターに送るために、プライマーバルブを15～20回ほど連続して押してください。

・オイル量が足りない場合、適当なオイルを給油してください。

・給油する時に、必ず燃料フィルターを使ってください。

運転前の準備(ガソリン)



⚠ 警告



禁止

- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
- ・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。



指示

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入った場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

⚠ 注意



禁止

- ・燃料は規定量以上(ストレナーの赤レベル以上)、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。
- ・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。



指示

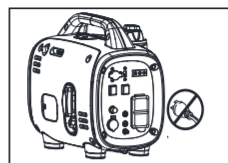
- ・燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付けてください。
- ・燃料を入れすぎて溢れたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取ってください。
- ・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- ・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

発電機のかけ方(ガソリン)

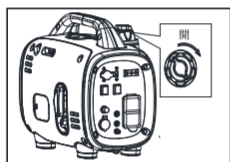
エンジンの起動

❗ 指示

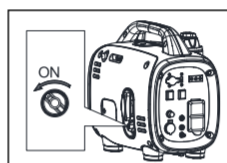
- ・エンジンオイルを充填しないと起動できません。
- ・オイルを補給した後は本機を傾けないでください。
- ・エンジン始動の前に電気製品を接続しないでください。



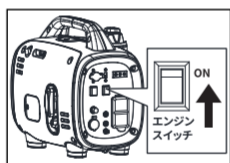
1. 燃料タンクキャップつまみを開けます。



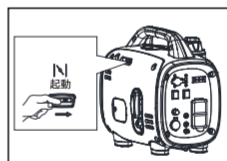
2. ガソリンコックを「ON」の位置にします。



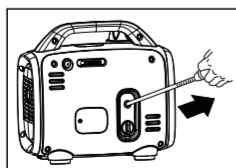
3. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。



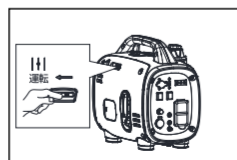
4. チョークレバーを[起動]の位置にします。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



5. リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



6. 起動後エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを[運転]の位置にします。



7. 運転出力表示ランプ(緑色)が点灯していることを確認します。

発電機のかけ方(ガソリン)

警告



- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。
- エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。

注意



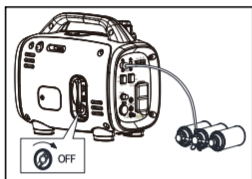
- リコイルスターターグリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- リコイルスターターハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、20分間ほど発電機を換気性の良い場所に置いて、再度起動を試みてください。
- 気温は10℃以下場合、エンジンの回転が安定したら、エコモードで3～5分間暖機運転します。

発電機のかけ方(カセットボンベ)

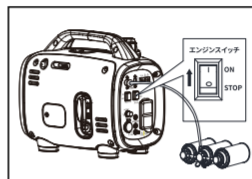
⚠ 注意

カセットボンベを使う場合、ガソリンコックをOFFの位置にしてください。

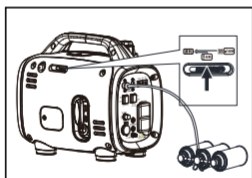
- 1.カセットボンベと外付け用ソケットを装着します。



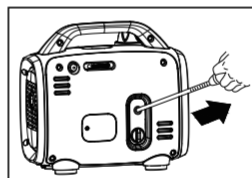
- 2.エンジンスイッチを「ON」の位置にします。



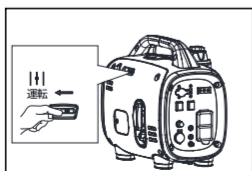
- 3.チョークレバーを[中央]の位置にします。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



- 4.リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢よく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



- 5.起動後エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを[運転]の位置にします。

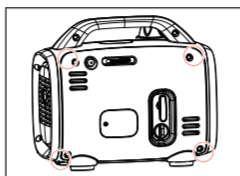


- ご注意:リコイルスターターグリップを数回引いてもエンジンが始動しない時は、チョークレバーを[起動]の位置にして2~3回を起動してから、[運転]の位置に戻して再度起動を試みてください。

- 6.運転出力表示ランプ(緑色)が点灯し、エンジンの回転が安定したら、電気製品を接続して使えます。

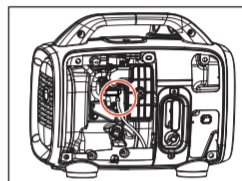
燃料の排出方法

1. エンジンスイッチを「OFF」にしてドライバーを使って外カバーを取り外してください。

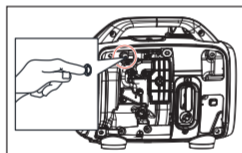


2. クランプの両耳をプライヤーで挟み、2~3cm下に移動させてください。手でオイルホースを引き抜いてください。

※鋭利な工具でオイルホースを挟まないでください。
ホースが破損し、燃料漏れの危険があります。



3. 発電機を反対側に傾け、プライマーバルブ(給油器)を繰り返し押し、内部の燃料を排出してください。



燃料満タン状態



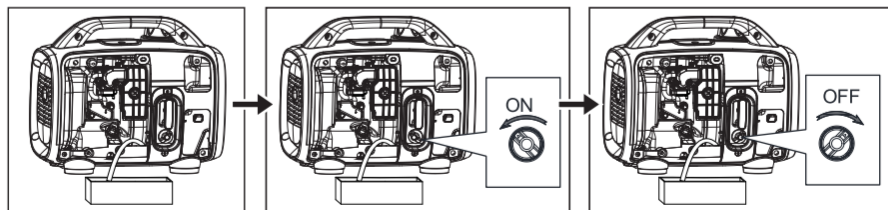
燃料排出状態

(構造上、内部の燃料を完全には排出できません)

4. 燃料スイッチ「ON」の位置に設定してオイルホースの先端を燃料回収容器に挿入してください。

燃料が完全に排出されたら、燃料バルブを時計回りに回転させ、「OFF」の位置に設定してください。

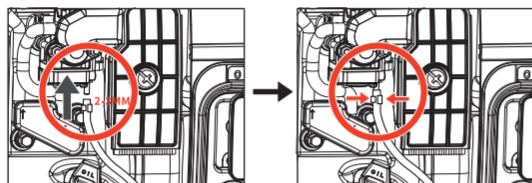
※回収した容器内の燃料は、全体の容量の90%を超えないようにしてください。
燃料回収容器は適切に保管してください。



燃料の排出方法

5. ホースの取り付け

クランプをホース先端から2~3mmの位置に移動させ、ホース先端とキャブレターの給油口を正しく合わせて、下図所示の位置まで軽く押し上げてください。



6. ドライバーを使って外カバーを取り付けてください。



電気の取り出し方

AC電源100V

- 1.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 3.電気機器のスイッチを入れます。正常運転（定格負荷）でご使用の場合は、出力表示ランプ（緑）が点灯し続けます。
- 4.過負荷運転や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯（緑）が消え、過負荷警告ランプ（赤）が点灯し続け、電気が取出せなくなります。この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、エンジンを一旦停止させてからエンジンを再始動することで、出力表示ランプ（緑）が点灯し電気の供給が再開されます。

DC電源12V

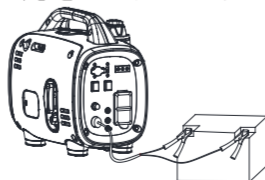
車載用電気機器に給電する場合

- 1.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 3.車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転（定格負荷）でご使用の場合は、出力表示ランプ（緑）が点灯し続けます。

車バッテリーに充電する場合

- 1.シガーソケットにバッテリー充電用コードを接続します。
- 2.12Vバッテリーにワニ口クリップを接続します。
注意：ワニ口クリップの赤が+、黒が-です。+と-の極性を間違いなく接続してください。
- 3.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 4.正常運転（定格負荷）でご使用の場合は、出力表示ランプ（緑）が点灯し続けます。

※ご注意：充電時間はバッテリーの放電時間によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重をチェックしながら充電してください。バッテリー液の比重が1.26～1.28になれば充電完了です。



電気の取り出し方

警告



禁止

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

注意



禁止

・電気器具の合計負荷(交流、直流の合計)が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。



指示

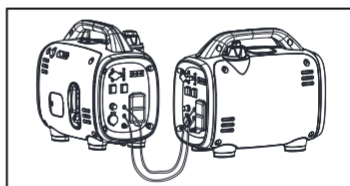
・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ(原動機雑音)の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ(原動機雑音)に影響されないことを確認してください。

・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。

・電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。

並列運転

並列運転コード(別売り)をそれぞれの発電機の並列運転端子に接続し、アース端子にアース線を接続します。



- 1.それぞれの発電機の周波数切替スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせてます。
- 2.「発電機のかけ方」に従ってそれぞれのエンジンを起動します。
- 3.電気機器のスイッチが切れていることを確認し、並列運転コードのコンセントに電気機器のプラグを差し込みます。
- 4.電気機器のスイッチを入れます。正常運転でご使用の場合は、二つの発電機の出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

電気の取り出し方

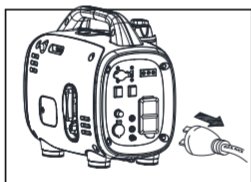
警告

指示

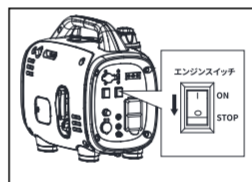
- 並列運転時出力 = 1台あたり定格出力 × 台数 × 0.9
- 並列運転コードは、エンジン始動前に接続し、エンジン停止後に外してください。
- アース線は、使用する電気機器をアースする場合において、本機それぞれのアース端子に接続してください。
- 並列運転コードは、別売りです。販売元とお問い合わせください。

エンジンの停止

1. 電気器具のスイッチをOFFして、電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

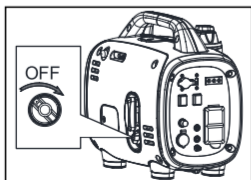


2. パネルのエンジンスイッチをSTOPして、エンジンを停止します。

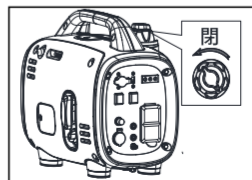


ガソリンの場合

3. ガソリンコックをOFFの位置にします。



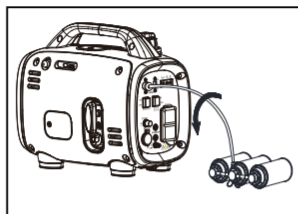
4. 燃料タンクキャップつまみを閉じます。



電気の取り出し方

ガスボンベの場合

5. カセットボンベ外付け用ソケットを発電機から反時計回り取外します。





燃料切り替え

⚠ 注意

1. ガソリンを使える時に、カセットボンベを取り付けないでください。
2. ガソリンからカセットボンベを切り替えの際に、ガソリンコックをOFFにした後でカセットボンベを取り付けてください。
3. 二つ燃料切替えて始動時に、カセットボンベとガソリンの同時にエンジンに入って、エンジンが不安定な運転する可能性があります。その時、無負荷運転して（電気機器は接続しない）、回転数の変動が少なくなら、また電気製品を接続して使用できます。

点検・整備の仕方

定期的にメンテナンスをする事によって本製品が最適な状態に保つ事ができます。

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンス前に本書を読み必要なツールや技術がある事を確認してください。 ・メンテナンスをする前にエンジンを停止し、エンジンが始動ができない状態であることを確認してください。 ・火災や爆発の危険を回避するため、メンテナンス作業するときは注意が必要です。部品の洗浄にはガソリンではなく、不燃性の溶剤のみを使用してください。タバコ、火花、炎を本体に近づけないでください。
 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・交換する部品は当社の指定する部品以外は使用しないでください。 ・業務使用の場合、通常より短い期間でメンテナンスが必要となり、怠ると保証できない故障が発生する可能性があります。

定期点検表

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。2回目以降は100時間運転後または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

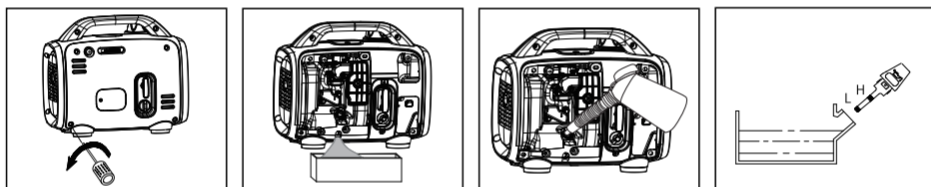
※2 ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※1		●	
燃料	・量、漏れの点検	●				
燃料ホース	・燃料ホースにひび割れ、亀裂等、燃料漏れの有無を確認・交換してください	●				
エアクリーナー	・損傷、劣化の目視と指触による点検	●				
	・清掃			●※2		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
燃料タンクストレーナー	・汚れ、詰まりの目視点検および清掃				●	
マフラーワイヤネット	・清掃				●	
外装	・取り付けボルトのゆるみ確認			●		

点検・整備の仕方

エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し、2～3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
2. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
3. 左側の防護カバーのネジ(4カ所)をゆるめて、手前に引いて取り外します。
4. オイルプラグを外します。
5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
6. 付属のオイルジョッキを利用して、エンジンオイルを規定量給油します。
7. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。左側の防護カバーを取り付けます。

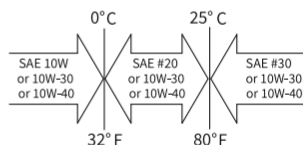


推奨オイル:

4サイクル用エンジンオイル

SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上

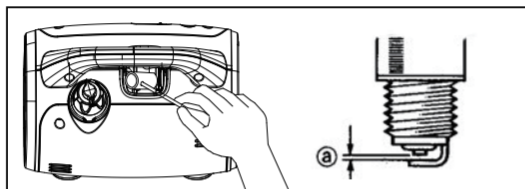
エンジンオイル規定量:0.25L(250ml)



点検・整備の仕方

点火プラグの点検と清掃

1. 点火プラグメンテナンスカバーのネジをゆるめて取外します。
2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. プラグレンチハンドル、プラグレンチで点火プラグを取外します。

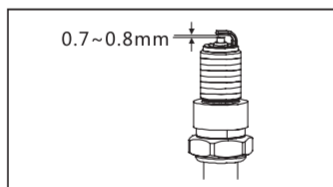


4. スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ(カーボン)を落とします。

5. 電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。

指定点火プラグ:AL60C(LD) CMR6A(NGK)

電極のすき間:0.7~0.8mm



6. 取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。
8. 点火プラグメンテナンスカバーを取付けます。

⚠ 注意



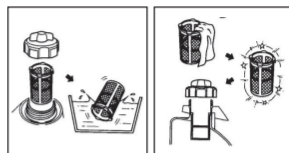
指示

• やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

点検・整備の仕方

燃料タンクストレーナーの清掃

1. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。
2. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。
3. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。
4. 燃料タンクキャップを取り付けます。



⚠ 警告

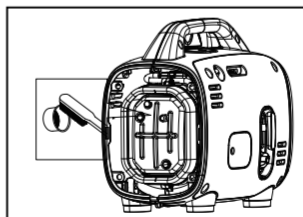
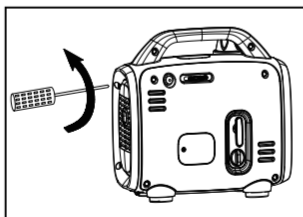


禁止

・作業中は喫煙したり、火気を近づけたりしないでください。

マフラーキャップの清掃

1. マフラーカバーのボルト (4カ所) をゆるめて取り外します。
2. マフラーキャップを取り外します。
3. ワイヤブラシ (市販品) を使用してマフラーキャップの汚れを取り除きます。
4. マフラーキャップを取付けます。
5. マフラーカバーとボルトを元に戻します。

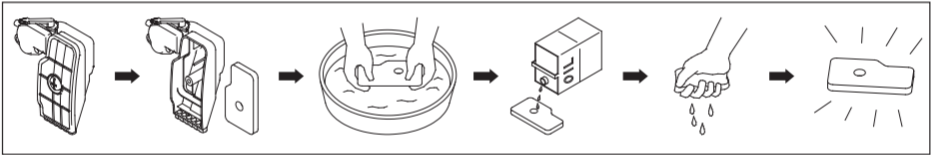


点検・整備の仕方

エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーが汚れて詰まるとエンジンに燃焼用の空気を送れず、点火しづらかったりエンジン回転数が安定しないなど、エンジン不具合の原因となります。定期的にエアクリーナーを清掃してください。土埃や埃などが多い環境で使用される場合は頻繁に点検清掃を行ってください。

1. 左側の防護カバーのネジ(4カ所)をゆるめて、手前に引いて取り外します。
2. スクリュをゆるめて、エレメント(空気ろ過部)を取り外します。
3. きれいな灯油でエレメントを洗浄します。洗浄後、エレメントを布で包み押しつぶすようにしぼります。
4. エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。
5. エレメントをエアクリーナー本体にはめ込みます。エアクリーナーカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。
6. 左側の防護カバーを取り付けます。



警告



・洗い油は引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

注意



・エレメントは絶対につつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。
・エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。



運搬する場合には

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、以下を必ず守ってください。

運搬の場合

1. ガソリンコックを「OFF」の位置にします。
2. 外付けカセットボンベソケットを取り出します。
3. エンジンが十分に冷えてから、燃料タンクキャップつまみを閉じます。
4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用してガソリンを抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。
5. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
6. 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定します。

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none">・振動、衝撃などで燃料タンクのガソリンがこぼれるおそれがありますので、燃料タンクにガソリンを給油したまま運搬しないでください。・ガソリンが気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。・火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。・発電機の上に重い物を置かないでください。
 指示	<ul style="list-style-type: none">・火災のおそれがありますので、予備のガソリンは消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。・本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。特に横倒したまま運搬すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

一時保管・長期保管

使用後または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これを行わないと、故障の原因となります。

一時保管の場合

1. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。また、外付けカセットボンベソケットを取り外します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
3. 燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。(P12~15ページ参照)
4. 無負荷運転(電気機器は接続しない)を行ってます。エンジンが「燃料ない状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内のガソリン残量によって「燃料ない状態」になるまでの時間は変わります。
5. エンジンが停止しましたら、右側の防護カバーのネジを回して、防護カバーを取り外します。
6. 排出するガソリンを受ける容器を用意します。
7. P15~16ページを参考に、ガソリンを排出してください。
8. 防護カバーを取り付けて、ネジを確実に締め付けます。
9. ガソリンコックをOFFにし、燃料タンクキャップつまみをOFFの位置にします。
10. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

長期保管の場合

1. “一時保管”の1~10の作業を行います。
2. 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3~5mL給油します。
3. リコイルスターターグリップを2~3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
4. リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態(圧縮状態)にします。
5. 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないでお買い上げの販売店にお問い合わせください。

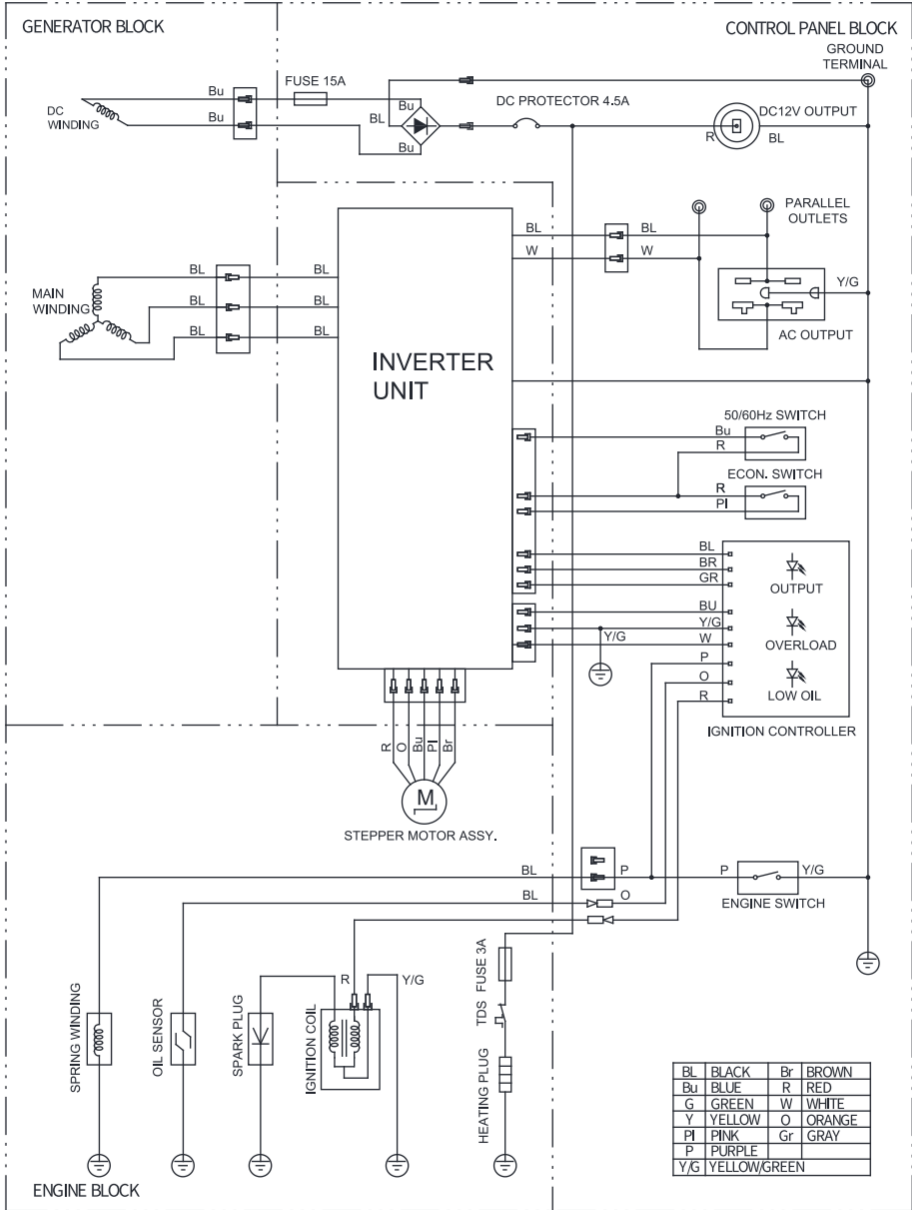
症状	考えられる原因	処置	参照ページ	
エンジンが 始動しない	カセットボンベが空になっている	カセットボンベを交換する	9ページ	
	オイル警告ランプ(赤)が点灯している→ エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	7ページ	
	エンジンスイッチが OFF になっている	ONにする	/	
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	12~14ページ	
	チョークレバーの位置調整	エンジンが温まっている場合 や夏期は「運転」		4ページ
		エンジンが冷えている場合 や冬期は「起動」		4ページ
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	23ページ	
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	19~23ページ	
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	本機周辺を点検する、水平にする	8ページ	
外気温度が低い	ガソリン:-5~40℃ カセットボンベ:5~40℃	/		
エンジンが 数分動いた 後止まる	チョークレバーの位置調整	起動後、チョークレバーを 「運転」の位置にする	4ページ	
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	13ページ	
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	15ページ	
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	21ページ	
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	23ページ	
マフラーから 白煙が出る	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して 規定量を注入する	20ページ	
	SA級など、指定以外のエンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルを使用する	20ページ	
電気が取り 出せない	過負荷警告ランプ(赤)が点灯・点滅、出力ランプが消灯する	過負荷の原因または使用器具の異常を改善する	5ページ	
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用	エコモードをOFFにする	5ページ	
	シートをかぶせている、または屋内で使用するなどして本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	8ページ	

仕様諸元

機種	GS950iD-B	発電部型式	多極界磁回転型
相数	単相	力率	1
交流(AC)	定格出力	0.7kVA (ガソリン) / 0.65kVA (カセットボンベ)	
	最大出力	0.8kVA (ガソリン) / 0.75kVA (カセットボンベ)	
	定格電圧	100V	
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz	
直流(DC)	定格電圧	12V	
	定格電流	4A	
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン	
	総排気量	40cc	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	点火プラグ	AL60C (LD) CMR6A (NGK)	
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイル SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上	
	エンジンオイル規定量	0.25L	
連続運転時間	定格(100%負荷)	2.8h(ガソリン1.4L)	
		0.75h(カセットボンベ1本)	
燃料タンク容量	1.4L		
始動方式	リコイルスターター		
寸法(全長×全幅×全高)	395×221×345mm		
乾燥重量	10.5kg		
使用環境温度	ガソリン:-5~40℃ カセットボンベ:5~40℃		

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

配線図



保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はご購入より一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③本体の上部に貼られているバーコードラベルでの製造番号

④故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけると幸いです。)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、ご購入の販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

メールアドレス



support@eenour.com

受付時間:10:00-13:00、14:30-17:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

保証書

品名	EENOURインバーター発電機
品番	GS950iD-B
購入日	年 月 日
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）
お客様	ご住所 〒 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
	電話 ()
	お名前 ----- 様

1. 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限ります。
2. 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限ります。
3. 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
4. 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。
 - * 本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。
 - * 使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。
 - * お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
5. 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。

保証の適用例外

1. 注文番号や保証書が提示できない場合
 2. 保証書の字句を書き替えられた場合、改ざんされている場合、その他事実と異なる記載がされていた場合。
 3. ご使用上の誤り、または不当な修理や改造、誤接続、誤挿入や指定外の電源使用、他の接続している製品から受けた障害や、故障、損傷の場合。
 4. お買い上げ後の輸送や移動および落下、お客様にお引渡し後の不適当なお取り扱いにより生じた故障および損傷の場合。
 5. 火災/地震/風水害/落雷その他の天変地変、テロ、暴動、公害、塩害、ガス害(硫化ガス等) 異常な室温での使用、異常電圧などによる故障および損傷の場合。
 6. お客様のご使用環境や維持・管理方法に起因して生じた故障および損傷の場合(例:埃、錆、カビ、虫、小動物の侵入および糞尿による故障等)。
 7. 弊社に了承なく、製品本来の利用目的外で使用したことによる故障および損傷の場合。
 8. 再生品および中古販売で購入された場合。
- 以上各条に該当すると当社が判断した場合は保証期間内でも、有償修理または保証対象外となります。